

# 令和 7 年度地域連携推進会議議事録

日時：令和 8 年 1 月 27 日(火)

場所：東洋健生園会議室

## ○出席者

- |                      |        |
|----------------------|--------|
| ・ 内郷宮 2 区行政区長        | 遠藤幹夫 様 |
| ・ 特定非営利法人 常磐福祉会      |        |
| じょうばん福祉作業所 管理者       | 河原哲也 様 |
| ・ そよ風ネットいわき 相談支援専門員  | 廣島恵子 様 |
|                      | 植杉砂織 様 |
| ・ 内郷地区保健福祉センター 福祉介護係 | 星 様    |
| ・ 東洋健生園 施設長          | 齋藤忠道   |
| サービス管理責任者            | 錢高相学   |
| 事務                   | 佐久間愛   |
| 利用者                  | 鈴木温子 様 |

## 1. 施設担当者挨拶

- ・ 施設長より挨拶を頂く。

## 2. 委員紹介

- ・ 区長より順番に自己紹介をして頂く。

## 3. 施設概要説明

- ・ 施設長よりパワーポイント、配布資料の施設要覧を参照して頂きながらサービス内容などを説明をする。

### <質疑>

河原氏：利用者の平均利用期間はどのくらいか。

齋藤：8 割近くが東洋学園からの利用の為、小学生くらいから入所されています。

河原氏：設備のところで、実際に機械浴を提供している人数は何名か。

錢高：現在は女性利用者 3 名が利用しています。

河原氏：日中の生活介護事業の中で、外部から利用希望が寄せられたことはあるか。

銭高：自分の把握している 2 年間は今のところ相談は受けていません。

齋藤：利用できる枠はあるが、課題としては送迎が当園では行っていないため、通って頂ければ 1～2 名の受け入れは可能です。

遠藤氏：利用者が高齢化した場合、その先はどうなるのか心配している。

齋藤：この施設はあくまで知的障がい者の施設なので、車いすなどに適した作りとは言えなく、医療的ケアが必要な方などがでてきた場合、こちらでは対応できなくなる。

今後、そのようなケースが出た場合は、いわき病院と連携を取って対応します。

基本的には 65 歳以上は介護保険に切り替わるが、施設に入っている方は 65 歳以上になっても、出すことはできない。課題は機能低下に対する支援が難しくなる。

障害福祉サービスから介護保険の移行も壁が高い。現在、施設に入っている方は後回しにされる傾向がある。

河原氏：今年度から地域移行推進員が義務化されたが、いままで地域に移行された実績はあるか。

銭高：現在、女性利用者 1 名がグループホームの体験利用を進めています。その後、利用契約まで進められるように取り組んでいきます。

遠藤氏：内郷地区に住んではいるが住所を持たない世帯がいるが、この施設も避難を繰り返してきたなかで問題点はあったか。

齋藤：当初は富岡町福祉の里に施設が集まっていたので、地域住民の方々が遊びに来るような交流が多かったが、震災後は地域住民の方たちとの交流は薄くなっていると思います。

この会議をきっかけに、これから地域の方々との交流ができれば良いと思っています。

遠藤氏：宮 2 区の見守り活動の見学で医療センター看護学校の学生約 5.6 名が 10 ヶ所をまわっている。そのなかで、こういった施設も見学してもらってはどうか。4 月、5 月に 1 年生が来る予定になっている。

齋藤：そういったお話は大歓迎ですので、こちらこそありがとうございます。ぜひ、見学に来て頂きたい。

## ～施設内運営状況～

・事務の佐久間より、資金収支計算表 2 枚、貸借対照表を参照して頂きながら説明をする。

### <質疑応答>

河原氏：物価高騰や報酬改定があるなかで、三食の食事提供を行っていて大変な所はどこですか。

齋藤：今まで日本産のお米を使っていたのですが、高騰のあおりを受けまして、一時的にカリフォルニア米になっています。食感はパサパサした印象なため、米の価格が落ち着いたら直ぐに日本産に戻して欲しいと思っています。

#### 4. 施設内見学

- ・施設内の様子、設備等を一通り見学し、利用者と交流をして頂く。

#### 5. 意見交換

河原氏：利用者さん、みなさん穏やかに生活されている印象を受けました。

河原氏：社会資源としてのこれだけの建物を維持していくのは、とても大変なことだと感じました。

職員さんの業務が多忙で行き届かない共有スペース等の清掃などは外部の業者さんに委託するなど工夫がされている印象でした。

齋藤：職員の中でも現在、技能実習でインドネシアから男性2名来ていて、1年がたってすごく真面目に業務を行ってもらっています。求人を出してもなかなか集まらなく、これからの課題になっています。

遠藤氏：施設内に職員の休憩室などがありますか。

銭高：男子寮舎、女子寮舎ともに支援員室があったと思いますが、奥に夜勤者の仮眠室があり、日勤の職員はそこで利用者と接することがないように休憩を取っています。

植杉氏：今日の会議に参加して、とても勉強になりました。成年後見人としての役割を考えさせられた。地域との連携を考えた時、後見人としてどのように関わっていけばよいかは答えは見えていないが、引き続きお話を聞かせて頂いて教えて頂ければと思います。

遠藤氏：保護者などが施設を訪れた際に、泊まる場所はあるのですか。

齋藤：この場所に施設が建ってから、保護者さんが泊まりたいと要望を受けたことはなく、以前富岡町にあった時は、施設内に泊まる場所がありました。要望があれば、泊まることのできる部屋はありますので宿泊可能です。

河原氏：BCPの感染症として病院との連携はどうなっていますか。

銭高：当園では病院との連携として、市里病院のような精神科と連携が取れているのが強みだと思います。傷病者がでた場合は、看護師を通して医師に早急な指示を頂けます。

以上。

報告者 銭高相学